

〈令和三年度日本語学校教育研究大会趣旨〉

大会テーマ『日本語学校教育の挑戦Ⅱ—with コロナ・post コロナ・そして New normal へ』

大会委員長 大嶋智規（ヒューマンアカデミー日本語学校東京校）

令和の時代に入り、日本語教育の推進に関する法律の成立、日本語教育機関の告示基準の改正など、日本語教育界にとって大きな動きがありました。本研究大会も、新型コロナウイルスの蔓延により、昨年度、初めてオンラインでの開催を行いました。

令和三年は、新型コロナウイルス感染症に歯止めがかからず、政府の水際対策により、留学生を含む外国人の新規入国が原則禁止となり、今に至っています。コロナ感染症に翻弄されている中であっても、学びを止めず、学生同士を、また学生と日本語学校をつなぐ教育を模索しながら、日本語学校の役割や意義を再考する一年だったのではないのでしょうか。

このような一年を振り返り、そして未来に日本語学校教育を繋ぐことを目指し、本年度も昨年度のテーマを踏襲し、『日本語学校教育の挑戦Ⅱ—with コロナ・post コロナ・そして New normal へ』のもと、オンラインによる大会開催といたしました。

大会一日目は、はじめに、出入国在留管理庁から、コロナ禍が続く中での水際対策や外国人留学生の在留管理についてお話をいただき、続いて、文化庁から、日本語教師資格等制度の法制化に向けた検討や、ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業についてお話いただきます。午後には、日本語学校からの発信として三つのトピックについてみなさんと考えていきます。一つ目は、多くの日本語学校で導入されたオンライン授業について、二つ目は、世界の教育の潮流は、日本語学校教育をどう変えてきたか、今後どう変えていくのかについて、そして三つ目はコロナ禍において一時は交流がストップしてしまった地域との関わりについてです。今後の日本語学校教育の在り方を探る一歩としたいと思います。

大会二日目は、私たちが今後の日本語学校教育をより良くしていくための新たな学びの場としました。午前のプログラムで三つの分科会を予定しております。(1) オンライン授業を経験してきたからこそ改めて魅力ある授業を考えるためのインストラクショナルデザイン、(2) SNS、インスタグラムなどインターネット上のツールを活用した日本語学習、(3) 留学生の受け入れやその仕組みのデザインを考えることができるサービスデザイン・ユーザーEX です。私たちがこれまで挑戦し続けてきたことを再度振り返り、今後へつなげる時間としたいと思います。そして、午後には、昨年度に引き続き、日本語教育機関や教職員が果敢に取り組んだ教育活動を共有することを目的に、「実践ちよっと見」を開催します。発表者と参加者で意見交換をしていただき、明日からの実践へのヒントにしていただきたいと思います。

今大会はオンラインイベントサイト (EventHub) を利用しての開催となります。これは私たち大会委員の新たな挑戦です。みなさまの大会参加を有意義なものにすると同時に、New Normal な研究大会として行っていきます。

私たち日本語学校が挑戦し続けることは、すでに来日している留学生にも、そして来日を心待ちにしている待機留学生にも大きな力となると確信します。本大会を、共に日本語教育を語り、考え、明るい日本語学校教育実践を生み出す場にしていきましょう。